

アスター(エゾギク)  
*Callistephus chinensis*  
 (キク科)

アスター(宿根草の*Aster* spp.とは異なる)とも呼ばれる。主として仏花として用いられてきた1年草であるが、小輪多花性のアレンジアスターと称する品種群が育成され、側枝を切り離してフラワーアレンジメントの花材としての利用が広まった。花色は、赤、ピンク、青、紫、白と豊富である。水に生けた場合には茎基部や生け水が腐りやすいが、後処理剤の利用により解決できる。日持ちは比較的よいが、日数が経過すると葉の黄変・褐変が下葉から進行して問題となる。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
葉の萎れ	A: 萎れなし B: やや萎れる C: 葉が垂れ下がり激しく萎れるが、切り戻すと回復する D: 激しく萎れ、切り戻しても回復しない	
葉の黄変・褐変	A: 黄変なし B: 下葉に黄斑がみられる C: 黄斑が広がり、褐斑が生じる D: 中位葉にも黄斑が発生し、下位葉は褐変・壊死する	総苞葉も黄変する。
花卉の退色	A: 退色なし B: 新たに開花した花序の花弁で色が抜ける C: 激しく色が抜けた花序が開花花序の1/2以上となる	発色不良の花序であっても、観賞にたえる場合には、開花花序の1/2以上で激しく色が抜けても日持ち終了の判定はしない。
花序の老化	A: 老化の兆候なし 開花花序において B: 花弁がくすむ C: 数花序で花弁や筒状花の一部に褐変がみられる D: 1/3以上の花序で褐変がみられる	開花花序を対象とする。筒状花が露出している品種では、老化に伴ってこの部分が変色・褐変する。
その他	茎の腐り、病害虫など。	ダニの発生に注意する。

2) 留意点

エゾギクの花(蕾)は、舌状花(外側)と筒状花(内側)が集まった花序(頭状花序)であるので、ここでは1つの花を花序と呼ぶ。

花首が折れやすいので、取り扱いを丁寧に行う。

いけ水につかる部分の葉は取り除く。

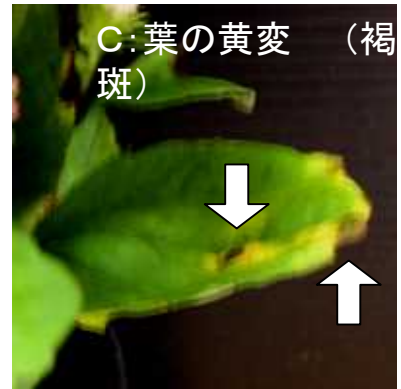
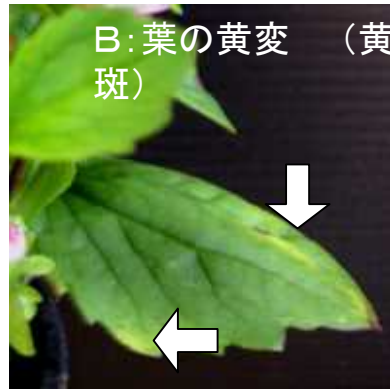
乾式輸送された切り花を直接後処理剤に入れると障害(葉の黄変)が出やすいので、いったん水で吸水させてから後処理剤を入れた生け水に移して評価を開始する。

萎れが激しい場合には、切り戻しを行う。

3) 開花



#### 4) チェック事項



葉の黄変・褐変



花序の老化

